

東京

ムを北側の山手線ホームの隣に移設する。東京五輪の開催前の2020年春の完成を目指す。内回りと外回りで別々になっている山手線ホームは一本化し、ホームの両側に

埼京線の乗り換えについて「連絡通路をかなり歩くので、不便をかけている」と語った。改良工事では埼京線ホームを北側に約350m移設し、山手線ホームと隣り合わせ

便性を高める。改良工事の総工費は約750億円を見込む。渋谷駅の再開発を巡っては、同社や東京急行電

ースのある高層ビルを建設中。各鉄道の乗り換え時間を短縮する通路の整備なども進めている。東京都市と羽田空港を結ぶ羽田アクセス線の20年までの全線開業に関し

て、富田社長は「厳しい状況になっている」と述べた。その上で、部分開業などについては「可能性の検討を続けたい」と改めて強調した。

東京都はブランド豚の「TOKYO X」とスペイン名産のイベリコ豚を共同で効果的にPRする取り組みを始める。まず今秋に都内で開くイベントで、著名料理人が2種類の豚を使った料理を提供する計画だ。TOK

問するゴンサロ・デ・ベニート駐日スペイン大使に連携を呼びかける見通しだ。都は2020年の東京五輪に向け、東京の食の魅力を国内外に発信する方針だ。昨秋には東京産品を集めたイベント「東

イベントで「TOKYO X」を試食する丼添知事(2014年10月、東京・丸の内)

姉妹豚 構想

YO Xの生産農家を東北地方を中心に広げて生産数量を増やすとともに、東日本大震災の被災地支援にもつなげる。姉妹都市ならぬ「姉妹豚」の構想は、舛添要一知事が意欲を示している。16日に都庁を表敬訪

京味わいフェスタ」を丸の内で開催。歩行者天国にキッチンカーを並べ、特別メニューを提供した。今秋には味わいフェスタの規模を拡大し、丸の内から日比谷にかけての都心一帯で開く。服部幸

料理を考案してもらう予定。知名度の高いイベリコ豚とセットにすることで、TOKYO Xのブランド力を高める考え



ブランド向上へ共同PR

都、増産体制も整備

ブランド向上に欠かせない生産数量の拡大にも取り組む。TOKYO Xの年間出荷数量は現在約8000頭で、200万頭を超えるイベリコ豚には遠く及ばない。生産農家も都内6軒と都外の一部にとどまる。都は年間2万頭に増やす目標を掲げ、種豚を生産する青梅畜産センター(東京都青梅市)の改修に15年度から着手。東日本大震災の被災3県などの畜産農家に種豚を広げ、増産体制を整える。TOKYO Xは市場価格が高いため、都は被災地農家の経営支援にも貢献できるとみている。

東村山に営業拠

ニッパンレンタル 公共事業

建設機械レンタルのニッパンレンタルは東京都に進出する。東京五輪開催を控え増加が見込まれる公共工事をにらみ、9月にも東村山市に新たな営業拠点を開設し埼玉県所沢市などの顧客を開拓。埼玉県の既存3拠点とともに埼玉南部から都

内の現場へ向かう需要を取り込み、2018年12月期には売上高100億円と前期の6割増を目指す。東村山に設ける営業拠点は北東部の青葉町で同業他社の居抜き物件を活用する。同社の一般的な営業所と比べるとやや小

「具体的に聞く」

国交相、都の鉄道構想で

太田昭宏国土交通相は14日の記者会見で、東京都が都内の鉄道網の将来像としてまとめた広域交通ネットワーク計画について「具体的に聞く」と述べている。広域交通ネットワーク計画では東日本旅客鉄道(JR東日本)の羽田アクセス線など5路線を